# 千三百の坊さんが市内托鉢

震災記念堂建設寄附の募集應援の爲めけふから市内千三百ケ寺の住職は深編笠に墨み染の衣といふ托鉢姿、[illegible]内を[illegible]に廻り始めた（寫眞は被服廠に[illegible]臺をあげる一同）

# 孔子の戀愛觀（下）

秋梧

孔子と云へば世の御歴々達は大聖至聖先師文宣王などと長々しい徽號を冠ぶらせ、矢鱈に孔子を殆んど肉や皿を持つて居らない、天上の人であるやうに祭り上げて來たのである、而して一面に於ては孔子の教に復せよと聲驗疾呼して騒いでゐる、誠に矛盾した話である。勿論孔子は凡夫の比すべきものでない。人間としては實に偉い人で人類の生んだ者、地上の人としては恐らく孔子程偉い人はあるまいが矢張り此世の人である以上は、我々と同じやうに難儀や苦みを持つて、同じやうに苦しみになつたといふのでなければならぬ、南子の如き妖艷な女に對しても孔子は其に逢つて來たのである「予に否なる所あらば、天之を厭てん、天之を厭てん」とは其時孔子が自分を難じた子路に向つて言はれた言葉である、民國の新しい人達には孔子を自由戀愛の主張者だ（人情之所不能已者、聖人不禁）と說いてゐる人もあれば、孔子は自由離婚を實行した人だ（孔氏三世出其妻）と言つてゐる人もあるが、要するに孔子は人生の醜いも甘いも食ひぬけた「人中の至人」だと云ふた方が更に適當かと私は思ふ

次に孔子が删定した詩經十五國風の原存詩一百六十篇の中、今日學者が婦女問題に關したものだと解めたものは實で八十五篇もある其の中でも最も多いのは戀愛問題詩で、其次が女性美及び女性生活を描寫したもの、更に其次が婚姻問題と失戀問題の作品である、何故にかく戀愛問題の作品が其の最大多數を占めてゐるか？此は即ち兩性問題が人類生活上の最も重要的地位に在る證據である、其故に孔子は戀愛詩を删棄しなかつたのである、否恐らくは孔子も其を好んで誦じたであらう、現に論語の中にも孔子は「人にして周南召南を爲ずんば、其猶正に墻に面して立つが如し」と云ひ「思邪なし」と述べ「詩三百を誦し、之に授くるに政を以てして達せず、四方に使して專對する能はずんば、多と雖も亦奚を以てせん」と言つて、男女夫婦の詩の多き詩經を人に勸めてゐる所がアリアリと窺はれる、是詩經は男女の戀愛を明かにし、性情を悉くしてゐる爲、人類社會に必要であると認めての上に出たものである、啻に之れのみでない、天下幾多の男女が間違はれてゐる戀愛を正す所から、孔子は詩經の冒頭に關雎の詩を載せたのだと思ふ

戀愛を以て始終する結婚に就いては孔子は純然たる思想、人格そのものを對象とされた、地位も問はない、財產も問はない、容貌も問はない、只純粹に人物其のものを對象とするのが孔子の結婚に就いての標準であつた、此は論語に現はれた　のやうな話に依つても分ると思ふ

「子、公冶長を謂ふ、妻すべきなり、累紲の中にありと雖も、その罪にあらざるなり、其子を以て之に妻す」「子、南容を謂ふ、邦道あれば棄てられず、邦道なければ刑戮に免れんと、其兄の子を以て之に妻す」即ち公冶長は獄につながれてをるが、それは社會の爲に働いた國事犯の類であつて彼の罪ではないといふので其娘を嫁にやり南容は正義の行はれる社會に立てば用ひられ、不義の社會に逢へば韜遁して刑禍を免れる、立派な人物であると見立て、其兄の子をこれに結婚させたのである

由是觀之、孔子の戀愛に對しての思想は、要するに本能愛の醇化としての義務獻身的たる試驗の人道に立脚して目標を人類愛に置き、それに依つて性慾と一切の本

# みなみ俚謠

用紙ハガキ宛名本
欄係月計賞銀贈呈
[illegible]選

○蕃の乙女のかざしにしませう、深山路に咲く花菫　烏山頭　柳の木
○花の咲く頃物賣る乙女、聲もなつかし京訛り　嘉義　松露
○春が來たよと笑顏を見せて、彼岸櫻の咲き走り　高雄　石海
○思ひ困かぬ果敢ない影を、水に流して糸柳　臺南　柏春
○握り拳も笑ふてひろげ、東風に蕨のゆらゆらと　高雄　濺猿
○花に添はせりや程よい春の、月も悲しい身を泣す　烏山頭　末熟
○春が來たのに花笑ふのに、私しや淚日を泣くばかり　臺南　紫水
○　風に靡いた柳と知らで、眞一文字に來る乙鳥　烏山頭　桂馬
○ならば朧に此身も包み、追ふてみたさの螢がある　臺南　銀鈴
○君を可愛い花盜人と、人に噂言ふ下手もある　[illegible]

能を醇化し藝術化するものであると見るべきである（一五、三、二二）

## 台中五目

▲商工協會員百十八軒聯合の景品附き大賣出し、共進會開會中實行、買物一圓毎に景品券一枚進呈抽籤券十四萬枚の中、景品總額六千三百圓で、特等二百圓相當品二本、一等百圓相當品十二本、二等五十圓相當品十六本、以下十等まで一萬三千八百本、抽籤券は廿五日警察官、新聞記者立會の上、抽籤器へ嵌入

▲降りそうで降らなかつた天氣が近頃は晴れそうで降るやうになつた、共進會の諸君も、市民諸君も氣が氣でない、總大將の遠藤市尹は、俺れの一念で、共進會開會中は、一滴も雨は降らさぬと云つて居るが、どうやら怪やしい

▲生花展覽會場は、元と商銀支店跡に決定、入口に「中部臺灣諸流生花大會」の看板が掲げられる、併し陳列する諸流は、笹原、久米松崎、小川の各池の坊、浦中揚井宮の門下生のみで、深州、未生、晴龍、嵯峨、東山諸流は何故か遠慮

▲共進會本館の階下は、全部衛生に充用、陳列の諸標本、見ただけで餘り好い氣持ちはせぬ、出產率の赤ン坊の繪は、快感だが、死亡率に骸骨を描いたのは、聊かと一驚せざるを得ぬ、因みに臺中の出產率は全國第一なる都市の二番目で、死亡率は三番目

▲畜產館の入口には、牛や豚を描く積りであつたが、連日の雨で描けない、設計を板壁にする處であつた、因みに開會中、牛豚鷄諸君の賄料は五百餘圓だと、其料金から云ふと貴族待遇

▲藤川床、衛生館へ、理髮の元祖藤原采女亮の自筆軸物出陳、采女亮は北面の武士で、七百年前の人此の軸物は先年北海道で同人七百年祭擧行の際にも出陳した

▲藤川床には、紀州家から出た虎の卷繪の尺八と、二百八九十年前の鐵瓶と慶應三年大村藩の部將から貰つたと云ふ種が島の三ケあり此の三品は家寶として秘藏して居る、種が島は雷管づきのピストル

▲測候所前の磯島指物三歳の少女